

7th JSMD プログラム

会長講演

基調講演

招待講演

教育講演1～6

シンポジウムⅠ～Ⅲ

教育セミナー1～3

ワークショップ1～4

ミニ・ワークショップ

交流の広場

双極性障害委員会企画シンポジウム
コメディカル委員会企画シンポジウム
第4回うつ病診療講習会





会長講演

6月11日(金) 13:30～14:10

第1会場(コンサートホール)

うつ病者と語る看護

司会	野村 総一郎	防衛医科大学校精神科学講座
演者	長谷川 雅美	金沢大学医薬保健研究域保健学系

基調講演

6月11日(金) 14:10～15:00

第1会場(コンサートホール)

日本うつ病学会の医療的役割

司会	樋口 輝彦	独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
演者	野村 総一郎	防衛医科大学校精神科学講座

招待講演

6月12日(土) 13:10～14:00

第1会場(コンサートホール)

A novel psychotherapeutic intervention for treatment resistant depression and suicidal behaviour at the Life Promotion Clinic: Emotion Modulation Therapy

司会	長谷川 雅美	金沢大学医薬保健研究域保健学系
演者	Angelo De Gioannis	Australian Institute for Suicide Research and Prevention National Centre of Excellence in Suicide Prevention W.H.O. Collaborating Centre for Research and Training in Suicide Prevention Mt Gravatt Campus, Griffith University, Australia

教育講演1

6月11日(金) 15:00～15:50

第1会場(コンサートホール)

アルコール使用障害とうつ

司会	齋藤 利和	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
演者	樋口 進	独立行政法人国立病院機構久里浜アルコール症センター

教育講演2

6月11日(金) 15:00～15:50

第4会場(邦楽練習室)

季節性うつ病－冬型と夏型－

司会	松原 六郎	医療法人財団松原愛育会松原病院
演者	山口 成良	医療法人財団松原愛育会松原病院



教育講演3

6月12日(土) 11:00～11:50

第2会場(邦楽ホール)

監察医から見た自殺～東京23区の実態とデータ活用、予防に向けて～

司 会	白川 治	近畿大学医学部精神神経科学教室
演 者	福永 龍繁	東京都監察医務院

教育講演4

6月12日(土) 11:00～11:50

第3会場(交流ホール)

高齢者のうつ病と認知症、及びそれらに類似した病態について

司 会	小山 善子	金城大学医療健康学部理学療法学科
演 者	北村 立	石川県立高松病院

教育講演5

6月12日(土) 14:10～15:00

第2会場(邦楽ホール)

高齢うつ病の新たな視点－「高齢者のsoft bipolarity」について考える

司 会	三村 将	昭和大学医学部精神医学教室
演 者	武島 稔	石川県立高松病院診療部

教育講演6

6月12日(土) 14:10～15:00

第3会場(交流ホール)

うつ病の対人関係療法

司 会	越野 好文	栗津神経サナトリウム
演 者	水島 広子	水島広子こころの健康クリニック(対人関係療法専門)／慶應義塾大学医学部



シンポジウムⅠ 介護者のメンタルヘルス—コメディカルの連携

6月11日(金) 9:00～11:30

第1会場(コンサートホール)

オーガナイザー 朝田 隆 筑波大学臨床医学系精神医学

【趣旨・狙い】

介護には労苦がつきものである。とくに認知症患者の介護者は、他の身体疾患をもつ患者の介護者とは異なった苦労を経験する。介護に派生する心身、社会、経済的な打撃の諸々が、介護負担のもとになる。これらが介護者のうつ症状につながり、時には自死、心中という結果にも至る。介護負担には心身の機能障害、ケアの総量、そして患者の精神症状・行動異常が寄与する。介護者のメンタルヘルスを改善しようと、既に一部では先駆的な試みもなされているが、まだ萌芽の状態である。進み行く高齢化社会におけるこの重要課題への認識と対応策開発が活性化するように願って企画した。

司 会 朝田 隆 筑波大学臨床医学系精神医学

姉・清水由貴子の死が教えてくれたこと

清水 良子 (介護自殺したとされる清水由貴子さんの妹)

介護者とうつ—介護殺人事件にみられる介護者の現状と課題

湯原 悦子 日本福祉大学社会福祉学部

<死なないで!殺さないで!生きよう!メッセージ>の取り組み

—介護心中、介護殺人をなくしたいと願う、同じ介護体験者からの呼びかけ—

田部井 康夫 社団法人認知症の人と家族の会

介護負担としてのうつ病のメカニズム:その背景としての患者の生活障害と精神症状・行動異常

朝田 隆 筑波大学臨床医学系精神医学

総評

(指定討論) 野村 総一郎 防衛医科大学校精神科学講座

シンポジウムⅡ 周産期を中心としたうつ病と医療の在り方

6月12日(土) 9:00～11:30

第1会場(コンサートホール)

オーガナイザー 岡野 禎治 三重大学保健管理センター

【趣旨・狙い】

周産期は、女性のライフサイクルの中でも重症の気分障害の発現頻度や再発率が高くなることが指摘されている。したがって、妊産褥婦自身のケアのみならず、家族のメンタルヘルスの増進と予防のために、地域メンタルヘルスシステムの構築は、「健やか親子21」以降重要な課題の一つとなっている。しかしながら、母子保健と精神保健の縦割り構造の中で苦心する場面も少なくない。そこで、本シンポジウムでは適正な地域型リエゾン精神医療の構築を目指して、周産期のメンタルヘルスに関与された多職種の実験から、多職種からの役割と本音、課題など提起してもらい、忌憚のない討議を実現したい。

司 会 岡野 禎治 三重大学保健管理センター
北村 俊則 熊本大学大学院生命科学研究部臨床行動科学分野

周産期のメンタルヘルスにおけるレディスクリニックの役割

宗田 聡 医療法人社団宗友会、パークサイド広尾レディスクリニック



周産期メンタルヘルスケアにおける助産師の役割と課題

新井 陽子 北里大学看護学部

周産期メンタルヘルスにおける精神看護の役割と課題

玉木 敦子 近大姫路大学看護学部

石川県における母親のメンタルヘルス支援事業～産科医療機関・市町との連携～

飯田 芳枝 能登中部保健福祉センター羽昨地域センター

地域における周産期うつ病ケアプログラムの構築：

助産師・保健師・産科医・保育士・心理士・ケースワーカーそしてやっとな精神科医

北村 俊則 熊本大学大学院生命科学研究部臨床行動科学分野

シンポジウムⅢ 北陸の総合病院精神科におけるうつ病診療

6月12日(土) 14:10～16:40 第1会場(コンサートホール)

オーガナイザー 三邊 義雄 金沢大学附属病院神経科精神科

【趣旨・狙い】

金沢市で開催される本学会を機会に、北陸3県における総合病院精神科のうつ病診療について企画した。北陸3県(富山、石川、福井)は背景人口が300万人弱であるが、4つの大学病院の含む15の有床総合病院精神科(総ベッド数約700)があり、全国的にも非常に恵まれた体制で機能している。その実態と問題点を紹介したい

司 会 坂井 尚登 独立行政法人国立病院機構金沢医療センター精神科
加賀良 康武 公立松任石川中央病院神経科精神科

北陸の総合病院精神科診療の現状

吉本 博昭 富山市民病院精神科

うつ病診療における総合病院精神科における機能集約

三邊 義雄 金沢大学附属病院神経科精神科

福井県立病院こころの医療センターにおけるうつ病圏の受診者について

松田 博幸 福井県立病院こころの医療センター

公立能登総合病院におけるうつ病診療

平松 茂 公立能登総合病院精神センター

高岡市民病院におけるうつ病診療

橘 博之 高岡市民病院精神神経科



教育セミナー 1 実践的認知療法を学ぶ：うつ病の認知療法

6月11日(金) 16:10～17:40

第1会場(コンサートホール)

オーガナイザー 大野 裕 慶應義塾大学保健管理センター

【趣旨・狙い】

うつ病治療においては、薬物療法だけでなく、精神療法の技法を身につけておくことが重要ある。本セミナーでは、精神療法の中でもエビデンスの多い認知療法・認知行動療法の基本となる2つのアプローチである①症例の概念化と、②コラム法を用いた認知の再構成について、厚労働科学研究班が作成したうつ病の認知療法マニュアルに準拠しながら、実習を通して学習する。

座 長 大野 裕 慶應義塾大学保健管理センター

認知療法の概要と症例の概念化

大野 裕 慶應義塾大学保健管理センター

3つのコラムについて～認知再構成法～

菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

5～7つのコラム(反証・適応的思考)

大野 裕 慶應義塾大学保健管理センター

菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

中川 敦夫 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター

教育セミナー 2 患者の自殺を経験した医療従事者に対するケア

6月11日(金) 16:10～17:40

第2会場(邦楽ホール)

オーガナイザー 高橋 祥友 防衛医科大学校防衛医学研究センター行動科学研究部門

【趣旨・狙い】

治療に最善の努力をしても、不幸にして担当の患者が自ら命を絶つという事態は、精神科医療に従事する者が経験する最大の不幸と言えるかもしれない。これは精神科医療従事者にとっていつかは遭遇し得る危機管理という側面もある。そこで、患者の自殺が起きた際に治療や看護にあっていた者に生じる心理的反応を解説するとともに、死からしか学べないことは何かという視点からこの事態にどう対処すべきか参加者とともに考えていきたい。

座 長 倉知 正佳 富山大学副学長

演 者 高橋 祥友 防衛医科大学校防衛医学研究センター行動科学研究部門

**教育セミナー 3 抗うつ薬の臨床をめぐる批判に応える—アクチベーション症候群とその周辺—**

6月11日(金) 16:10～17:40

第3会場(交流ホール)

オーガナイザー 坂井 尚登 独立行政法人国立病院機構金沢医療センター精神科

【趣旨・狙い】

Activation Syndromeは既によく知られた抗うつ剤の副作用であるが、定義は曖昧で危険性の比較的低いものや、緊急性を要するものまで様々なレベルの状態をさしており、その個々の診断や具体的な対処方法などは更に検討される必要がある。また、副作用の過度の危険視がプライマリケアの医師や患者に不安を与え、臨床現場での混乱につながる場合もある。この他、双極性障害に対する抗うつ剤使用の問題など、抗うつ剤をめぐるトピックが多い現在、抗うつ剤の適正使用とその臨床的背景について学ぶことは非常に意味があると思われる。

座長 藤井 勉 富山県立中央病院精神科

演者 坂元 薫 東京女子医科大学医学部精神医学講座

ワークショップ 1 児童期うつへの対応

6月11日(金) 9:30～11:30

第2会場(邦楽ホール)

コーディネーター 花田 裕子 長崎大学大学院医歯薬学研究科

【趣旨・狙い】

児童期は、心身の発達著しい時期であり、発達の個体差や男女差も大きい。高学年になると前思春期を迎え情緒的に不安定になったり、ボディイメージの同一化の問題が生じやすい時や友人が重要他者となって、この危機を乗り越えて自分の学びたい知識や技術に取り組むことができるかといっている。学童期の子どもたちは、友人や年長の子ども同士の中で劣等感を感じたり、自分の得意なものを発見したりしながらこの課題を乗り越えていくが、うまくサポートを得られなかったり、幼児期からの問題が学校集団の中で顕在化してさまざまな問題行動となって現れることがある。また、家族問題は子どものメンタルヘルスに与える影響が大きい。これらのことから、児童期の不登校や問題行動などに子どもの抑うつが潜在化していることが考えられる。児童期の抑うつは家族を含めたケアが必要であり、医療・福祉・教育との連携が重要である。本ワークショップでは、児童期の子どもたちに関する医学・福祉・教育・看護の立場から多面的に児童期の抑うつとその対応の現状を報告していただき、これからの課題を明らかにしたい。

座長 花田 裕子 長崎大学大学院医歯薬学研究科

長崎子供大規模調査から見えてくること—抑うつ・ライフスタイル・生物学的視点—

小澤 寛樹 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

教育現場における児童期の抑うつへの取り組み—学校ベースの抑うつ防止プログラム—

石川 信一 宮崎大学教育文化学部

児童期うつへの対応—児童相談所より

金井 剛 横浜市中央児童相談所



ワークショップ2 思春期の気分障害

6月11日(金) 9:30～11:30

第3会場(交流ホール)

コーディネーター 棟居 俊夫 金沢大学子どものこころの発達研究センター

【趣旨・狙い】

気分障害は大うつ病性障害(うつ病)と双極性障害の2つに大別される。抑うつ症状を呈して受診する思春期患者は実に多い。双極性障害の、特に軽躁病は見逃されやすい。従って、抑うつ症状からうつ病と診断される危険性がある。また双極性障害は多様な経過で出現し、さまざまな附随症状を有していることが多い。思春期の気分障害を正確に鑑別し、適切な治療に結びつけるためにいろいろな角度から検討することを主旨とした。

抑うつ症状を呈する思春期の若者たちの診断および治療の留意点

棟居 俊夫 金沢大学子どものこころの発達研究センター

大学生に見られたうつ病エピソードの検討－bipolarityの観点から

井崎 ゆみ子 徳島大学保健管理センター

小児・思春期の潜在的な双極性障害～精神病理学的観点から

阿部 隆明 自治医科大学とちぎ子ども医療センター

ワークショップ3 うつ病診療におけるリエゾン精神医学とリエゾン精神看護の協働

6月12日(土) 9:00～11:00

第2会場(邦楽ホール)

コーディネーター 萱間 真美 聖路加看護大学精神看護学
藤原 修一郎 NPO地域精神医療ネットワーク

【趣旨・狙い】

総合病院精神科では、リエゾン精神医学およびリエゾン精神看護の取り組みがすすんでいる。本ワークショップでは、うつ病診療における協働に焦点をあて、これからの協働について展望する。

救命救急センターにおけるうつ病

またはうつ状態に対するリエゾン精神医学とリエゾン精神看護の協働

上條 吉人 北里大学医学部救命救急医学

北里大学病院におけるうつ病

またはうつ状態に対するリエゾン精神医学とリエゾン精神看護の協働

白井 教子 北里大学病院看護部

リエゾン精神医療分野における職種間連携のあり方

－精神科医と専門看護師の連携を中心に－

野末 聖香 慶應義塾大学看護医療学部

総合病院精神科の現状と看護師への期待

藤原 修一郎 NPO地域精神医療ネットワーク



ワークショップ4 働き盛りのうつ

6月12日(土) 9:00～11:00

第3会場(交流ホール)

コーディネーター 中尾 睦宏 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学心療内科
久保木 富房 東京大学医学部心療内科名誉教授、楽山病院名誉院長

【趣旨・狙い】

「働き盛り」とは人の一生のうち最も仕事に熱が入り成果の上がる年頃で、現代の日本では30-50代の年代を指すことが多い。仕事が順調であれば人生で最も充実した時期であろうが、その半面で多くの仕事の責任がのしかかりプレッシャーに耐えかねてうつ病やうつ状態になるケースが増えている。また昨今の就労環境の悪化に伴い、働き盛りの年代であっても自分の思うような職場が確保できなかつたり、厳しく不安定な労働条件に甘んじて働き続けた結果うつ症状を発症するケースもある。本ワークショップでは働き盛りの人に起きるうつ病・うつ状態の現状について、地域・職域・医療現場から報告し、どういった対応法や予防法が考えられるかフロアからの意見を聞きながら実践的な議論をしたい。

職域と地域における「働き盛りのうつ」の問題

竹内 武昭 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学心療内科

労災病院での診療からみえる「働き盛りのうつ」問題を中心に

津久井 要 横浜労災病院心療内科

ワーク・エンゲイジメントの視点からみた「働き盛りのうつ」

島津 明人 東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野

社会適応の観点からみた「働き盛りのうつ」

中尾 睦宏 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学心療内科

日本うつ病学会コメディカル委員会共同企画

ミニ・ワークショップ SCIDモジュールAを使いこなせる看護専門職になろう

6月11日(金) 9:30～11:30

第4会場(邦楽練習室)

コーディネーター・講師 北村 俊則 熊本大学大学院生命科学部臨床行動科学分野
コーディネーター 岡野 禎治 三重大学保健管理センター

【趣旨・狙い】

医療現場で高頻度に見られるうつ病を専門医師以外のスタッフが正確に発見するために、精神科診断用構造化面接である SCID のモジュールA(気分障害のセクション)を使いこなせるための研修会です。事前にSCIDを通読し、できれば現場で数回、使用してから出席していただきたいと思っております。またそうでなくとも、SCIDを「使ってみよう」と思えるようなコースにします。

【指定教材】

精神科診断面接マニュアル(SCID) 定価:8,190円、日本評論社、発刊日:2003.04
Structured Clinical Interview for DSM-IV Axis I Disorders.
Michael B.First・Robert L.Spitzer・Miriam Gibbon・Janet B.W.Williams 著
高橋 三郎(監修)北村 俊則、岡野 禎治(監訳)富田 拓郎、菊池 安希子(共訳)
<http://www.nippsy.co.jp/book/2072.html>



【その他】

参加者は前記指定教材を購入の上、ご参加ください。なお、研修用ビデオは(株)メディアパーク(TEL:03-5304-1920、FAX:03-5304-1921)で購入できます。事前にビデオを見て予習していただければ効果的です。

【事前登録方法】

定員:50名(先着順)

事前申込み:4月23日(金)で締め切りました。当日も空席があれば会場で受付を行います。

受講費:無料。ただし第7回日本うつ病学会総会の参加者に限ります。

【事前にお申込をした方へ】

事務局よりお送りした「受講受付確認メール」をプリントアウトの上、開催当日ご持参ください。第7回日本うつ病学会総会の参加登録証と「受講受付確認メール」をミニ・ワークショップの会場入口で係のものにご提示ください。

交流の広場 うつ病者のセルフヘルプグループエッセンスクラブの活動について

6月12日(土) 14:30～16:30

第4会場(邦楽練習室)

コーディネーター 谷本 千恵 石川県立看護大学地域在宅精神看護学講座

【趣旨・狙い】

うつ病の当事者へのソーシャルサポートの一つにピアサポートがあります。今回はその活動の実情についてより多くの方々に知っていただくことを目的としています。うつ病者のセルフヘルプグループ活動の実際の紹介から話題提供をしていただき、セルフヘルプグループの在り方について参加者の方々との意見交換を行います。コミニカルの皆さまの参加をお待ちしております。

司 会 谷本 千恵 石川県立看護大学地域在宅精神看護学講座
大江 真人 金沢大学大学院医学系研究科博士後期課程

NPO法人エッセンスクラブの活動(ピアサポート活動を通して見えてきたうつ病)

赤穂 依鈴子 NPO法人エッセンスクラブ

セルフヘルプグループの効果的な支援への取り組み

大江 真人 金沢大学大学院医学系研究科博士後期課程

参加方法:6月12日(土)7:20～受付を開始いたします。総合受付でお申込みください。
先着30名、定員になり次第締め切らせていただきます。

双極性障害委員会企画シンポジウム

双極性障害の課題:第1回ISBD Japanese Chapter Meeting

6月12日(土) 15:00～17:00

第2会場(邦楽ホール)

オーガナイザー・司会 神庭 重信 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野
司 会 内海 健 東京藝術大学保健管理センター

双極性障害の生物学

加藤 忠史 独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム



Bipolar Disorderの精神薬理学

寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

双極性障害の精神病理—歴史的回顧と臨床的課題

内海 健 東京藝術大学保健管理センター

双極性障害の対人関係・社会リズム療法 (IPSRT)

水島 広子 水島広子こころの健康クリニック(対人関係療法専門) / 慶應義塾大学医学部

コメディカル委員会企画シンポジウム

6月12日(土) 15:00 ~ 17:00

第3会場(交流ホール)

虐待から生じた児童思春期のうつ状態の事例検討

オーガナイザー	森崎 美奈子	帝京平成大学大学院健康情報科学研究科
	長谷川 雅美	金沢大学医薬保健研究域保健学系

【趣旨・狙い】

はじめに虐待によるうつ、に関する知識を習得する。次いで養護教諭・スクールカウンセラー(臨床心理士)によるケース(虐待から生じた児童思春期のうつ状態)を提示し、コメンテーターからのコメントの後に、ディスカッションでフロアジョイントを行なう。

司 会	森崎 美奈子	帝京平成大学大学院健康情報科学研究科
	佐野 信也	防衛医科大学校心理学

虐待を受けた子どもの二次的精神障害

西田 寿美 三重県立こども心療センターあすなろ学園

臨床心理士の立場から

鈴木 健一 金沢大学保健管理センター

事例発表

浅田 伸史 金沢大学保健管理センター

第4回うつ病診療講習会のお知らせ

6月12日(土) 9:00 ~ 14:00

第4会場(邦楽練習室)

日本うつ病学会診療教育委員会は、うつ病臨床のボトムアップのために、2007年より講習会を開催しています。今回は、第4回目となりますが、自らの診療技術に自信がない、標準的な診療をまとめて学習したい、という医師を対象としています。

定 員: 30名

受 講 料: 12,000円(テキスト・受講修了証・昼食代を含む)

参加資格:

- (対象)
1. プライマリーケア医または内科医など精神科医以外の医師
※うつ病(精神科)診療経験年数は問いません。
 2. 精神科の医師 [うつ病(精神科)診療経験年数をうかがいます。]



講師：診療教育委員会委員及びうつ病診療のエキスパート
主催：日本うつ病学会 診療教育委員会

目的と形式：

うつ病診療の標準的な治療とは何かを、5時間、少人数でのグループ形式参加型講習会で、学習することを目的としています。症状の評価、的確な診断、患者・家族への説明、治療法の選択と実践、回復・復帰の準備、保健福祉や職場との連携など・・・うつ病診療のポイントやピット・フォールを専門家と一緒に学ぶ機会です。講師は診療教育委員会委員およびうつ病診療のエキスパートが担当します。

講習会の最後に受講修了書を発行します。日本医師会認定産業医で希望する方には、更新時に有効な3.5単位分のシールを交付いたします。

産業医の方へ：

第4回うつ病診療講習会は、日本医師会認定産業医の生涯研修会として指定されました。日本医師会認定産業医の方がこの講習会を受講されますと、日本医師会認定産業医の更新に必要な生涯研修の単位として3.5単位を取得できます。

日本うつ病学会 診療教育委員会
委員長 平安 良雄
(横浜市立大学附属市民総合医療センター)

<プログラム>

- | | |
|---------------|--|
| 9:00 - 9:10 | イントロダクション：研修方法の概略説明 テーブル(グループ)ごとに自己紹介 |
| 9:05 - 9:15 | プレアンケート記載と回収 |
| 9:15 - 9:35 | リーディング・レクチャー「うつ病診療での30年間の変化」 |
| 9:35 - 9:40 | 症例1呈示 ～メランコリー型で多剤併用や仕事を休ませるタイミングなどが間違っている症例～ |
| 9:40 - 10:05 | グループワーク：問題点抽出 |
| 10:05 - 10:15 | ポイント解説：症例の問題点を確認、Q&A |
| 10:15 - 10:35 | レクチャー「薬物療法の留意点について」 |
| 10:35 - 10:50 | 休憩 |
| 10:50 - 10:55 | 症例2呈示 ～気分変動でずるずる復職しなくて困るケースの生活指導を含めての症例～ |
| 10:55 - 11:20 | グループワーク：問題点抽出 |
| 11:20 - 11:30 | ポイント解説：症例の問題点を確認、Q&A |
| 11:30 - 11:50 | レクチャー「診断のコツについて」 |
| 11:50 - 12:30 | 昼食と懇談 |
| 12:30 - 12:35 | 症例3呈示 ～抑うつ状態が遷延し、自殺に至ったケース～ |
| 12:35 - 13:00 | グループワーク：問題点抽出 |
| 13:00 - 13:10 | ポイント解説：症例の問題点を確認、Q&A |
| 13:10 - 13:30 | レクチャー「自己愛的ケースの扱い方」 |
| 13:30 - 13:40 | まとめ |
| 13:40 - 14:00 | ポストアンケート記載と回収
修了証贈呈 |



ランチオンセミナー 1

6月11日(金) 12:00～13:00

第1会場(コンサートホール)

社交不安障害(SAD)の概念の拡大と変遷—未だ慢性の「うつ病」に埋もれ—

座長	中村 純	産業医科大学医学部精神医学教室
演者	永田 利彦	大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学教室
共催	グラクソ・スミスクライン株式会社	

ランチオンセミナー 2

6月11日(金) 12:00～13:00

第2会場(邦楽ホール)

寛解をめざしたうつ病の薬物療法

座長	神庭 重信	九州大学大学院医学研究院精神病態医学
演者	石郷岡 純	東京女子医科大学医学部精神医学教室
共催	塩野義製薬株式会社/日本イーライリリー株式会社	

ランチオンセミナー 3

6月11日(金) 12:00～13:00

第3会場(交流ホール)

我々のうつ病治療に問題はないだろうか？
～うつ病に対する多面的なアプローチの重要性～

座長	越野 好文	金沢大学名誉教授/粟津神経サナトリウム顧問
演者	渡邊 衡一郎	慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
共催	アステラス製薬株式会社/明治製菓株式会社	

ランチオンセミナー 4

6月12日(土) 12:00～13:00

第1会場(コンサートホール)

大うつ病の薬物療法:エビデンスアップデート

座長	松原 三郎	医療法人財団松原愛育会松原病院
演者	古川 壽亮	名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野
共催	ファイザー株式会社	

ランチオンセミナー 5

6月12日(土) 12:00～13:00

第2会場(邦楽ホール)

多様なうつ状態・うつ病と社会復帰

座長	上島 国利	国際医療福祉大学医療福祉学部
演者	中村 純	産業医科大学医学部精神医学教室
共催	旭化成ファーマ株式会社/ヤンセンファーマ株式会社	



ランチオンセミナー 6

6月12日(土) 12:00～13:00

第3会場(交流ホール)

時代の要請に応えるうつ病臨床のKey Wordsを検証する

座長	広瀬 徹也	財団法人神経研究所(理事長)／帝京大学(名誉教授)
演者	坂元 薫	東京女子医科大学医学部精神医学講座
共催	明治製菓株式会社/シェリング・プラウ株式会社	

イブニングセミナー 1

6月11日(金) 15:10～16:10

第2会場(邦楽ホール)

双極性混合状態における不安・焦燥感対策の重要性 － LithiumにTandospironeを併用し効果がみられた34症例の検討－

座長	小山 司	北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野
演者	片上 哲也	関西医科大学精神神経科学教室
共催	大日本住友製薬株式会社	

イブニングセミナー 2

6月11日(金) 15:10～16:10

第3会場(交流ホール)

内分泌代謝疾患における精神症状

座長	坪井 康次	東邦大学心療内科
演者	高橋 裕	神戸大学大学院医学研究科内科学講座糖尿病代謝内分泌内科学分野
共催	ノボ ノルディスク ファーマ株式会社	

モーニングセミナー

6月12日(土) 7:50～8:50

第3会場(交流ホール)

双極性障害における診断の諸問題

座長	尾崎 紀夫	名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
演者	加藤 忠史	理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム
共催	協和発酵キリン株式会社	



市民公開講座

6月12日(土) 17:30～19:30

第1会場(コンサートホール)

第7回日本うつ病学会市民公開講座 / 第11回JCPTD市民公開講座

テーマ: うつと向き合うー生きる・支える・受けとめるー

司 会

長谷川 雅美 第7回日本うつ病学会総会会長/金沢大学医薬保健研究域保健学系

共 催

日本うつ病学会
一般社団法人うつ病の予防・治療日本委員会
北國新聞社/塩野義製薬株式会社/日本イーライリリー株式会社

<プログラム>

開会挨拶: 野村 総一郎 日本うつ病学会理事長/防衛医科大学校精神科学講座

講演1: うつ病の正しい理解と対応

前久保 邦昭 前久保クリニック

講演2: 見過されやすいうつ病のサイン

小山 司 北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野

講演3: 今日も二人で～うつと向き合う日々から～

小山 明子 女優

閉会挨拶: 中根 允文 一般社団法人うつ病の予防・治療日本委員会代表理事
長崎大学名誉教授・出島診療所

入 場 料

無料

定 員

704名(定員)

参加希望の方へのご案内

この市民公開講座は一般市民の方を対象にしております。

第7回日本うつ病学会総会のプログラムの一つでもあります。一般市民の方の参加を優先いたします。

第7回日本うつ病学会総会参加者の方には恐縮ですが、入場を制限させていただきます。

6月11日(金)8:00～総合受付にて市民公開講座参加を希望する方、先着100名様に市民公開講座入場券をお配りいたします。ご希望の方は総合受付にてお受取りください。100名を超えた場合には締切らせていただきますので予めご了承くださいませようお願い申し上げます。



1. 薬物療法

P1-1 うつ病に対するアリピプラゾール内用液の増強療法に関する臨床効果

西崎 真紀¹⁾

1) 大阪府済生会中津病院精神科、2) 城北きむら医院

P1-2 Mirtazapin に期待される臨床効果～当院での使用経験を踏まえての一考察

信田 広晶

医療法人社団心癒会しのだの森ホスピタル

P1-3 ミルタザピン (NaSSA) と選択的セロトニン再取り込み阻害薬の併用によるマウスの攻撃行動抑制効果

今西 泰一郎¹⁾、大山 昌代¹⁾、石渡 和也¹⁾、角井 信一¹⁾、山内 美紀¹⁾、小山 司²⁾

1) 明治製菓・医薬研究所、2) 北海道大医学部精神医学分野

P1-4 ノルアドレナリン・セロトニン遊離量に及ぼすミルタザピンとミルナシプランの併用効果

山内 美紀¹⁾、今西 泰一郎¹⁾、小山 司²⁾

1) 明治製菓医薬研究所、2) 北海道大学医学部精神医学分野

P1-5 新規抗うつ剤ミルタザピンの使用経験 (第1報) ～アドヒアランスを考える会～

青山 洋¹⁾、石垣 達也²⁾、熊田 貴之^{1,3)}、住吉 秋次⁴⁾

1) 日吉病院、2) 東横恵愛病院、3) 昭和大学藤が丘病院、4) 住吉クリニック

P1-6 抗うつ薬の副作用はアドヒアランスを低下させるか? : 前向きコホート研究

菊地 俊暁¹⁾、鈴木 健文^{1,2,3,4)}、内田 裕之^{1,2)}、野村 健介^{1,5)}、渡邊 衡一郎¹⁾、鹿島 晴雄¹⁾

1) 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、

2) Geriatric Mental Health Program, Centre for Addiction and Mental Health, Toronto, Ontario, Canada、

3) Multimodal Imaging Group, PET Centre, Centre for Addiction and Mental Health, Toronto, Ontario, Canada、

4) Department of Psychiatry, University of Toronto, Ontario, Canada、5) 島田療育センター

P1-7 双極性障害の抑うつ状態に lamotrigine が有効であった1例

真鍋 貴子、杉田 ゆみこ、津村 麻紀、古川 はるか、森田 満子、伊藤 達彦、忽滑谷 和孝

東京慈恵会医科大学医学部精神医学講座

P1-8 一般病院内科外来における睡眠薬/抗不安薬処方に関連する要因の探索：うつ病診断に注目した検討

稲垣 正俊^{1,2)}、大槻 露華²⁾、斎藤 顕宜²⁾、及川 雄悦³⁾、黒澤 美枝⁴⁾、山田 光彦²⁾

1) 国立精神・神経センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター、

2) 国立精神・神経センター精神保健研究所老人精神保健部、3) 奥州市国民健康保険まごころ病院、

4) 岩手県精神保健福祉センター



P1-9

抗うつ薬単剤服用者のアドヒアレンスに関連する心理社会的因子： インターネット調査を通じて

重村 淳、小川 哲男、吉野 相英、佐藤 豊、野村 総一郎
防衛医科大学校精神科学講座

2. 薬物療法以外の治療法

P2-1

うつ病のセルフヘルプとしての認知療法活用モバイルサイトの可能性

長谷部 智子¹⁾、田島 美幸²⁾、大野 裕³⁾

- 1) 慶應義塾大学大学院医学研究科ストレスマネジメント室、
- 2) 慶應義塾大学医学部ストレスマネジメント室、3) 慶應義塾大学保健管理センター

P2-2

睡眠薬長期服用中の慢性不眠症患者に対する認知行動療法

—不眠症状と抑うつ症状の改善効果—

岡島 義^{1,2)}、林田 健一^{1,3)}、中村 真樹^{1,2)}、渡邊 芽里^{1,3)}、碓氷 章^{1,4)}、渋井 佳代^{1,5)}、井上 雄一^{1,2)}

- 1) 財団法人神経研究所附属睡眠学センター、2) 東京医科大学睡眠学講座、
- 3) スリープ&ストレスクリニック、4) 文京学院大学保健医療技術学部、5) スリープクリニック銀座

P2-3

職場支援に重点を置く復職デイクアの取り組み～長期休職者の事例を通して～

大儀 宏昭、牧 賢美、原田 健一
特定医療法人富尾会桜が丘病院

P2-4

寛解期うつ病に対する不眠治療の介入

～うつ病再発予防プログラム参加者の不眠を通して～

青木 公義¹⁾、舘原 禎人¹⁾、原田 大輔¹⁾、落合 結介¹⁾、青木 亮¹⁾、渡邊 友弥¹⁾、杉田 ゆみ子¹⁾、山尾 あゆみ¹⁾、古川 はるこ¹⁾、津村 麻紀¹⁾、森田 満子²⁾、真鍋 貴子²⁾、小曾根 基裕²⁾、忽滑谷 和孝¹⁾、中山 和彦²⁾

- 1) 東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科、2) 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科

P2-5

看護師のうつ病患者に対する援助行動に伴う共感性の分析

—共感的援助行動尺度 (Empathic Nursing Behavior Scale: ENB) を用いて

上野 恭子¹⁾、栗原 加代²⁾、山川 百合子³⁾

- 1) 順天堂大学医療看護学部、2) 茨城県立キリスト教大学看護学部看護学科、
- 3) 茨城県立医療大学医科学センター

P2-6

注意バイアスの変容が心理的ストレスに対する抑うつ気分及ぼす影響

津村 秀樹¹⁾、野村 和孝^{1,2)}、野添 健太¹⁾、嶋田 洋徳³⁾

- 1) 早稲田大学大学院人間科学研究科、2) 日本学術振興会特別研究員、3) 早稲田大学人間科学学術院

P2-7

個人医院デイクアにおけるうつ病治療の取り組み

梶尾 都¹⁾、小田 良光¹⁾、鈴木 修¹⁾、谷野 芙美子²⁾

- 1) 医療法人社団和敬会谷野医院総曲輪デイクアセンター、2) 医療法人社団和敬会谷野医院



P2-8

記憶の検索過程への介入が概括的な記憶の想起に及ぼす影響

山本 哲也¹⁾、嶋田 洋徳²⁾

1) 早稲田大学大学院人間科学研究科、2) 早稲田大学人間科学学術院

P2-9

心療内科病院のチーム医療による復職プログラム実施の試み ～医療と企業の連携～

大塚 明子¹⁾、日下 朗¹⁾、村山 宏治¹⁾、竹谷 梨沙¹⁾、中村 吉伸¹⁾、久保木 富房^{1,2)}

1) 秀峰会心療内科病院楽山、2) 東京大学

P2-10

セルフヘルプグループに参加しているうつ病者の心理的体験の特徴

大江 真人、長谷川 雅美

金沢大学医薬保健研究域保健学系

3. 病態・症状・診断・評価

P3-1

レビー小体型認知症に伴ううつ状態の心理特性 －大うつ病、アルツハイマー病との比較－

服部 英幸、吉山 顕次、三浦 利奈、藤江 祥子

国立長寿医療センター精神科

P3-2

舌痛症におけるうつ傾向の関連要因

中野 良信

市立枚方市民病院歯科口腔外科

P3-3

血漿の脳由来神経栄養因子 (BDNF) は症候期から寛解期に至ったうつ病で有意 に増加する－うつ病の治療における血漿 BDNF 測定の有用性－

栗田 征武^{1,2)}、西野 敏^{1,2)}、加藤 舞子¹⁾、齋藤 代助¹⁾、山本 裕史¹⁾、寺西 美佳^{1,2,3)}、
武吉 健児^{1,3)}、竹内 幸宏¹⁾、山本 芳正¹⁾、御供 正明¹⁾、長谷川 朝穂¹⁾、沼田 由紀夫¹⁾、
佐藤 忠宏¹⁾、中畑 則道²⁾

1) 社会医療法人公徳会佐藤病院、2) 東北大学大学院薬学研究科細胞情報薬学分野、

3) 日本医科大学精神神経科

P3-4

限定された状況でのみ症状を訴えながらも「うつ病」であると自ら主張した患者 の病状と BAUM TEST の特徴

福山 幸子¹⁾、小野 久江^{1,2,3)}、福井 優子¹⁾、磯部 直彦^{1,3)}、松田 裕子¹⁾、円山 アンナ¹⁾

1) 円山医院心療内科、2) 関西学院大学文学部総合心理科学科、

3) 関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻教育心理学領域

P3-5

年齢群別にみたうつ病患者の血清アミロイドβ蛋白

喜多 洋平¹⁾、馬場 元^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、小澤 和弘²⁾、萩谷 久美子²⁾、
酒井 佳永^{1,2)}、長根 亜紀子^{2,3)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊¹⁾

1) 順天堂大学医学部精神医学教室、

2) Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP) 順天堂大学医学部付属順天堂越谷病院、

3) 医療法人社団俊睿会南埼玉病院



P3-6

寛解したうつ病の遂行機能と認知機能

～服薬中の患者と服薬終了した患者の比較；第2報～

長根 亜紀子^{1,3,4)}、馬場 元^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、深津 真奈⁴⁾、小澤 和弘¹⁾、
萩谷 久美子¹⁾、酒井 佳永^{1,2)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊²⁾

- 1) Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、
- 2) 順天堂大学医学部精神医学教室、3) 医療法人社団俊睿会南埼玉病院、
- 4) 医療法人社団俊睿会いずみクリニック

P3-7

年齢群で比較したうつ病寛解直後と長期寛解後の記憶機能について

前嶋 仁¹⁾、馬場 元^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、小澤 和弘¹⁾、萩谷 久美子¹⁾、酒井 佳永^{1,2)}、
北島 明佳⁴⁾、長根 亜紀子^{1,3)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊²⁾

- 1) Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、
- 2) 順天堂大学医学部精神医学教室、3) 医療法人社団俊睿会南埼玉病院、4) 元気会横浜病院

P3-8

自尊心の神経基盤の探索：機能的MRIによる検討

藤澤 洋輔¹⁾、八幡 憲明²⁾、野守 美千子¹⁾、神山 貴弘¹⁾、舘野 周³⁾、川島 義高³⁾、
森田 健太郎¹⁾、増岡 孝浩¹⁾、大久保 善朗³⁾

- 1) 日本医科大学医学部、2) 東京大学精神神経科、3) 日本医科大学精神医学教室

P3-9

維持透析患者の心理状態を分析する（第1報）

坂東 紀代美¹⁾、長谷川 雅美²⁾

- 1) 金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程、2) 金沢大学医薬保健研究域保健学系

P3-10

うつ病における自己評価と他覚的評価の乖離とNIRSによる脳血流変化量の評価

辻井 農亜、切目 栄司、西口 直希、明石 浩幸、左海 真介、白川 治
近畿大学医学部精神神経科学教室

P3-11

一般集団における抑うつ症状と脂肪酸代謝の関連性について

坪井 宏仁¹⁾、榊原 啓之²⁾、小林 公子³⁾、渡邊 美寿津⁴⁾、小林 章雄⁴⁾、松永 昌宏¹⁾、
川西 陽子¹⁾、金子 宏¹⁾、下位 香代子²⁾

- 1) 藤田保健衛生大学医学部神経内科（心療内科）、2) 静岡県立大学環境科学研究所生体機能学研究室、
- 3) 静岡県立大学食品栄養科学部食品生命科学科人類遺伝学研究室、4) 愛知医科大学医学部衛生学講座

P3-12

うつ病の重症度とNIRSによる脳血流変化量との相関

切目 栄司、辻井 農亜、明石 浩幸、左海 真介、西口 直希、白川 治
近畿大学医学部精神神経科学

P3-13

長期寛解後のうつ病患者におけるMMSEと認知機能の関連について

萩谷 久美子¹⁾、馬場 元^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、小澤 和弘¹⁾、酒井 佳永^{1,2)}、
長根 亜紀子³⁾、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊^{1,2)}

- 1) Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、
- 2) 順天堂大学医学部精神医学教室、3) 医療法人社団俊睿会南埼玉病院

P3-14

不安・抑うつ発作の臨床的特徴

正木 美奈¹⁾、貝谷 久宣^{1,2)}、宇佐美 英里²⁾、野口 恭子²⁾、小松 智賀²⁾、井上 顕^{1,3)}

- 1) 医療法人和楽会なごやメンタルクリニック、2) 医療法人和楽会赤坂クリニック心療内科・精神科、
- 3) 藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学



4. 調査

P4-1

うつ病患者の社会適応に関連する心理的要因の差異 — 就業状態を考慮した検証 —

伊藤 大輔^{1,2)}、田上 明日香^{1,2,3)}、大野 真由子^{1,3)}、清水 馨^{1,3)}、瀬戸口 和久³⁾、塚 瑞絵³⁾、
白井 麻理³⁾、嶋田 洋徳⁴⁾、鈴木 伸一⁴⁾

1) 早稲田大学大学院人間科学研究科、2) 日本学術振興会特別研究員、3) 小石川メンタルクリニック、
4) 早稲田大学人間科学学術院

P4-2

看護師の「感情活用能力」Emotional Literacy 促進プログラムの開発

小谷野 康子¹⁾、小田切 美紀²⁾、宮本 真巳³⁾

1) 順天堂大学医療看護学部看護学科、2) 東京医科歯科大学、
3) 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科

P4-3

精神科領域のめまいに関する重心動揺計を用いた評価

五島 史行¹⁾、小川 郁²⁾、三村 將³⁾

1) 日野市立病院耳鼻咽喉科、2) 慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科、3) 昭和大学医学部精神神経科

P4-4

メタボリックシンドロームにおけるうつ状態の有病率：久山町研究

関田 敦子¹⁾、小原 知之¹⁾、谷崎 弓裕²⁾、二宮 利治³⁾、土井 康文³⁾、秦 淳²⁾、福原 正代²⁾、
清原 裕²⁾、神庭 重信¹⁾

1) 九州大学大学院医学研究院精神病態医学、2) 九州大学大学院医学研究院環境医学、
3) 九州大学大学院医学研究院病態機能内科学

P4-5

臨床看護師のストレス要因とサポート状況の実態調査

新井 里美¹⁾、長谷川 雅美²⁾

1) 金沢大学附属病院、2) 金沢大学医薬保健研究域

P4-6

ディスチミア親和型うつ病に対する大学生の意識調査

小野 久江、弓場 菜穂子、竹谷 怜子、野中 由花、泉 七恵、辻本 江美、後藤 涼子、
浦田 亜樹、高木 亮、藤井 俊哉、湯浅 唯子

関西学院大学文学部総合心理科学科

P4-7

気分障害の抑うつ症状と睡眠構造についての終夜脳波を用いた検討

西多 昌規^{1,2)}、藤田 宗久¹⁾、尾崎 麻美¹⁾、行実 知昭¹⁾、和田 成司²⁾、山本 拓郎²⁾、安田 章夫²⁾、
西川 徹¹⁾

1) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医学分野、
2) ソニー株式会社先端マテリアル研究所ライフサイエンス研究部

P4-8

年齢群で比較したうつ病寛解直後と長期寛解後の遂行機能について

中野 祥行^{1,2)}、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、小澤 和弘¹⁾、萩谷 久美子¹⁾、酒井 佳永^{1,2)}、
長根 亜紀子^{1,3)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊²⁾

1) Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、
2) 順天堂大学医学部精神医学教室、3) 医療法人社団俊睿会南埼玉病院



P4-9

デジタルペンによる内田クレペリン検査を用いたうつ病の復職準備性評価に関する考察

有馬 秀晃^{1,2)}、川上 憲人²⁾、川口 英夫^{2,3,4)}、石川 千佳子¹⁾、三角 真之介¹⁾、蔵屋 鉄平¹⁾、孫田 未生¹⁾

1) 品川駅前メンタルクリニック、2) 東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野、
3) 東洋大学生命科学部、4) 日立製作所

P4-10

服薬中の難治性うつ病におけるBDNFと臨床症状の関連

里村 恵美¹⁾、馬場 元^{1,2)}、中野 祥行^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、小澤 和弘²⁾、萩谷 久美子²⁾、酒井 佳永^{1,2)}、北島 明佳⁴⁾、長根 亜紀子³⁾、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊¹⁾

1) 順天堂大学医学部精神医学教室、
2) Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、
3) 医療法人社団俊春会南埼玉病院、4) 元気会横浜病院

P4-11

Prospective study of maternal depressive symptomatology among Japanese women

石川 直子、尾崎 紀夫、大岡 治恵
名古屋大学大学院医学系研究科

P4-12

無床総合病院精神科におけるうつ病治療の現状 ～CGIを用いた1年後の治療成績～

渡邊 友弥¹⁾、古川 はるこ¹⁾、津村 麻紀¹⁾、山尾 あゆみ¹⁾、杉田 ゆみ子¹⁾、青木 亮¹⁾、
落合 結介¹⁾、原田 大輔¹⁾、青木 公義¹⁾、颯原 禎人¹⁾、忽滑谷 和孝¹⁾、中山 和彦²⁾

1) 東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科、2) 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科

P4-13

当院における初診患者の過去5年間の変遷 ～うつ病およびうつ状態の患者を中心とした解析と考察～

飛田 真砂美¹⁾、尾鷲 登志美¹⁾、熊田 貴之¹⁾、山下 さおり²⁾、小城 幸乃³⁾、工藤 行夫¹⁾

1) 昭和大学藤が丘病院精神神経科、2) 大和病院、3) ハートフル川崎病院

5. ライフサイクルとうつ病

P5-1

抑うつ状態の思春期の子どもの変化と看護師の役割

高田 沙織、永江 誠治、松尾 綾、花田 裕子
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

P5-2

大学生の母親における抑うつ状態の実態とその要因

菅田 亜美¹⁾、松本 可歩里¹⁾、山口 舞¹⁾、竹田 聖子¹⁾、大江 真人²⁾、長田 恭子²⁾、
河村 一海²⁾、長谷川 雅美²⁾

1) 金沢大学医学部保健学科、2) 金沢大学医薬保健研究域保健学系

P5-3

抑うつを併発した選択性緘黙の子どもに対する心理教育の実践

永江 誠治、小澤 寛樹、本田 歩美、花田 裕子
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科



P5-4

認知の変容と社会的スキルの獲得が児童の抑うつ症状に及ぼす影響

石川 信一¹⁾、松原 耕平²⁾、福満 恵里子^{2,3)}、佐藤 寛^{1,4)}、尾形 明子¹⁾、戸ヶ崎 泰子¹⁾、
佐藤 容子¹⁾、佐藤 正二¹⁾

1) 宮崎大学教育文化学部、2) 宮崎大学大学院教育学研究科、3) 三股町立長田小学校、
4) Oregon Research Institute

P5-5

妊産婦の抑うつと Bonding 障害との関係

大岡 治恵、尾崎 紀夫、石川 直子

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

P5-6

高齢者に対する抗うつ剤の使用状況

田端 一基

医療法人社団旭川圭泉会病院

P5-7

中学校における抑うつ予防プログラムの維持効果

尾形 明子、戸ヶ崎 泰子、石川 信一、佐藤 正二、佐藤 容子

宮崎大学教育文化学部

P5-8

高齢者における小うつ病性障害の罹病期間

長谷川 千絵¹⁾、石島 英樹²⁾、飯田 浩毅³⁾、鈴木 友理子⁴⁾、吉田 英世⁵⁾、田中 克俊⁶⁾、
井原 一成⁷⁾

1) 東京武蔵野病院、2) 武蔵台病院、3) NTT 東日本伊豆病院、

4) 国立・精神神経センター精神保健研究所、5) 東京都老人総合研究所、

6) 北里大学大学院医療系研究科、7) 東邦大学医学部社会医学講座公衆衛生学分野

P5-9

性的逸脱行動を呈した思春期女子のうつ病とその回復

松尾 綾、永江 誠治、小澤 寛樹、花田 裕子

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

P5-10

アルツハイマー型認知症に伴ううつ状態と局所脳血流の相関について

橋本 博史¹⁾、片岡 浩平²⁾、河邊 讓治³⁾、東山 滋明³⁾、秋山 尚徳⁵⁾、島田 藍子¹⁾、
田川 亮²⁾、甲斐 利弘⁴⁾、井上 幸紀¹⁾、塩見 進³⁾、切池 信夫¹⁾

1) 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学、2) 大阪市立弘済院附属病院、

3) 大阪市立大学大学院医学研究科核医学、4) 大阪市立総合医療センター精神神経科、

5) 和泉中央病院

P5-11

うつ病寛解後の社会機能を予測する要因－若年者と高齢者における検討；JUMP

酒井 佳永^{1,2)}、馬場 元^{1,2)}、鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊²⁾

1) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、2) 順天堂大学医学部精神医学講座



6. 自殺予防と家族への支援

P6-1

自殺予防事業を考える：富士モデルへの建設的フィードバック

斉尾 武郎^{1,2)}、栗原 千絵子³⁾、櫻澤 博文⁴⁾

- 1) フジ虎ノ門健康増進センター、2) K&S 産業精神保健コンサルティング、3) 放射線医学総合研究所、
- 4) さくらざわ労働衛生コンサルタント

P6-2

うつ病患者の服薬コンプライアンスと自殺リスクの経時的モニタリング

関口 潔

国際医療福祉大学医療福祉学部医療福祉・マネジメント学科

P6-3

住民参加型の自殺予防活動における住民意識の変化について

田口 学¹⁾、梅田 陽子²⁾、神先 真³⁾、小沼 美帆⁴⁾、渡邊 直樹⁵⁾

- 1) 聖マリアンナ医科大学神経精神科研究員、2) 京都大学高等教育研究開発推進機構、
- 3) 久慈地域メンタルヘルスサポートネットワーク、4) 由利本荘市鳥海福祉保健課、
- 5) 関西国際大学人間科学部人間心理学科

P6-4

不眠を切り口としたうつ病の早期発見～富士モデル事業の実践から～

市原 真記

静岡県精神保健福祉センター

P6-5

外部EAPにおける自殺リスクのアセスメントから自殺回避のための仕組みについて

三浦 由美子、西嶋 和彦

株式会社イーブ

P6-6

うつ病者家族の困難性尺度作成の試みー妥当性および信頼性の検証ー

木村 洋子¹⁾、長谷川 雅美²⁾

- 1) 奈良県立医科大学医学部看護学科、2) 金沢大学医薬保健研究域保健学系

P6-7

精神科急性期病棟の双極性障害患者を抱える家族の思い 第1報ー自殺企図した子を支える親の思いに焦点を当ててー

長山 豊¹⁾、福塚 明¹⁾、中谷 友梨子¹⁾、大江 真吾¹⁾、加藤 梨菜¹⁾、内多 真理絵¹⁾、
清水 映里¹⁾、辻 真理子¹⁾、山下 由紀¹⁾、山本 沙也加¹⁾、中出 裕美¹⁾、長谷川 雅美²⁾

- 1) 金沢大学附属病院、2) 金沢大学医薬保健研究域保健学系

7. 産業メンタルヘルス

P7-1

リワークプログラムの参加で復職した双極性障害の2症例 ～地方都市における小規模ショートケアでのリワーク活動

大橋 昌資¹⁾、後藤 由美子¹⁾、田中 富美子¹⁾、小野 直美¹⁾、藤原 茂樹^{1,2)}

- 1) 響ストレスケア～こころとからの診療所、2) 藤原医院



P7-2

人口30万人都市におけるうつ病リワークプログラムの取り組み

徳倉 達也、中島 千恵、高野 琴美、渡辺 ゆう子、太田 理恵子、大谷 洋一、浅井 慶介、藤田 泉

ささがわ通り心・身クリニックデイケア(復職準備コース)

P7-3

うつ病復職者に対する集団認知行動療法の効果～3カ月フォローアップの検討～

清水 馨¹⁾、田上 明日香^{1,2,3)}、伊藤 大輔¹⁾、大野 真由子^{1,3)}、塚 瑞絵³⁾、瀬戸口 和久³⁾、白井 麻理³⁾、嶋田 洋徳⁴⁾、鈴木 伸一⁴⁾

1) 早稲田大学大学院人間科学研究科、2) 日本学術振興会特別研究員、3) 小石川メンタルクリニック、4) 早稲田大学人間科学学術院

P7-4

労働者の抑うつ気分と生活習慣

井上 幸紀、岩崎 進一、中尾 剛久、出口 裕彦、山内 常生、室矢 匡代、小林 由実、切池 信夫

大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

P7-5

職域における現代型うつ病の類型化とその対応

近藤 恭子¹⁾、峰山 幸子²⁾、川上 憲人³⁾

1) (財) 淳風会柳川診療所・柳川メンタルクリニック、2) (財) 淳風会メンタルサポートセンター、3) 東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野

P7-6

復職可能と判断されたうつ病を持つ公務員における前頭部脳血流変化—無線式NIRS装置を用いた無拘束脳血流測定による検討—

池田 英二¹⁾、池田 東香^{2,3,4)}、塩崎 一昌²⁾、平安 良雄²⁾

1) 富山県厚生部、2) 横浜市立大学精神医学、3) 南富山カウンセリングルーム、4) 国立病院機構北陸病院

P7-7

うつ病休職者の治療期間と休職期間に関わる心理社会的要因の検討、および復職支援における認知行動的アプローチの考察

山本 貢司¹⁾、松村 英哉¹⁾、横田 安奈¹⁾、小関 奈々子¹⁾、田口 香代子^{1,2)}、後藤 健一¹⁾、三木 和平^{1,2)}

1) 横浜ストレスケアクリニック、2) 三木メンタルクリニック

P7-8

事業場のラインと復職支援コーディネータの協働モデルによる復職支援効果—IT専門職の復帰者・ラインへの多面的インタビューより

隅谷 理子^{1,2)}、中田 貴晃²⁾、緒方 俊雄²⁾、大西 守³⁾

1) 上智大学大学院総合人間科学研究科、2) 株式会社アドバンテッジリスクマネジメント、3) 日本精神保健福祉連盟

P7-9

農業体験を通じた精神疾患勤労者への社会復帰モデルの検証—土に触れ、風に吹かれて人は元気になる—

秦 政¹⁾、中田 貴晃²⁾、隅谷 理子^{2,3)}、大西 守⁴⁾

1) NPO障がい者就業・雇用支援センター、2) 株式会社アドバンテッジリスクマネジメント、3) 上智大学大学院総合人間科学研究科、4) 日本精神保健福祉連盟



P7-10

うつ病休職者の職場復帰の不安尺度とうつ症状および社会適応との関連

田上 明日香^{1,2,3)}、伊藤 大輔¹⁾、大野 真由子^{1,3)}、清水 馨^{1,3)}、塚 瑞絵³⁾、瀬戸口 和久³⁾、
白井 麻理³⁾、嶋田 洋徳⁴⁾、鈴木 伸一⁴⁾

1) 早稲田大学大学院人間科学研究科、2) 日本学術振興会特別研究員、3) 小石川メンタルクリニック、
4) 早稲田大学人間科学学術院

P7-11

うつ病休職者の復職判断可否基準に関する研究動向

大野 真由子^{1,3)}、田上 明日香^{1,2,3)}、伊藤 大輔¹⁾、清水 馨^{1,3)}、塚 瑞絵³⁾、瀬戸口 和久³⁾、
白井 麻理³⁾、鈴木 伸一⁴⁾

1) 早稲田大学大学院人間科学研究科、2) 日本学術振興会特別研究員、3) 小石川メンタルクリニック、
4) 早稲田大学人間科学学術院

8. 症例検討

P8-1

双極性気分障害にアルコール依存を併発した1男性患者への復職支援 ～アルコール非専門医療機関にできること～

小笠原 一能^{1,2)}、木村 新¹⁾、池田 沙弥香¹⁾、久下 美香¹⁾、山田 耕平¹⁾、西尾 恭兵¹⁾、
木村 宏之²⁾、尾崎 紀夫²⁾

1) 医療法人亀廣記念医学会関西記念病院心療内科・精神科、
2) 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

P8-2

治療の行き詰まりと再設定を経て治療が進展していった一例 ～自己愛の観点からの一考察～

富永 幹人
不知火病院

P8-3

入院が長期化し医療行為に拒否的となった抑うつ状態の一例 ーリエゾンコンサルテーションの観点からー

天野 雄一、端詰 勝敬、稲垣 理沙子、小田原 幸、佐谷 健一郎、岩崎 愛、菅 さくら、
坪井 康次
東邦大学

P8-4

ラモトリジンの付加療法によって遷延性双極性うつ病相と不規則型睡眠覚醒 パターンが改善した成人のディスレクシアの臨床的特徴

大賀 健太郎¹⁾、奥平 智之²⁾、鈴木 康弘¹⁾、竹本 幸子³⁾、阿部 又一郎⁴⁾、内山 真¹⁾、
小島 卓也⁵⁾

1) 日本大学医学部精神医学系精神医学分野、2) 医療法人山口病院(川越)、
3) NPO法人あではで神奈川相談部、4) 国立精神神経センター精神保健研究所精神生理部、
5) 医療法人社団輔仁会大宮厚生病院

P8-5

障害者雇用における就労支援マネジメントのあり方をさぐる

石原 るり
南埼玉病院リハビリテーション部デイケア課



P8-6

大うつ病エピソードから替え玉妄想を中心とした幻覚妄想状態に移行した一例

出口 裕彦、井上 幸紀、岩崎 進一、松井 徳造、中尾 剛久、小林 由実、室矢 匡代、
切池 信夫

大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

P8-7

社会適応困難からうつ状態を呈した広汎性発達障害の1例

大野 篤志¹⁾、小堀 あゆみ²⁾、河野 絵美子³⁾

- 1) 特定医療法人薫会烏山台病院栃木県指定認知症疾患医療センター精神神経科、
- 2) 特定医療法人薫会烏山台病院栃木県指定認知症疾患医療センター心理部臨床心理士、
- 3) 特定医療法人薫会烏山台病院栃木県指定認知症疾患医療センター医療相談部精神保健福祉士

P8-8

社会適応困難からうつ状態を呈した軽度精神遅滞の1例

大野 篤志¹⁾、静野 智隆²⁾

- 1) 特定医療法人薫会烏山台病院栃木県指定認知症疾患医療センター精神神経科、
- 2) 特定医療法人薫会烏山台病院栃木県指定認知症疾患医療センター医療相談部精神保健福祉士

P8-9

うつ状態に歯肉痛などの口腔内症状を発症して歯科に紹介された1例

石田 恵

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯科心身医学分野